

【第89回】

富士ネット工業

企業コード：580808589 住所：大阪市此花区西九条2-7-18
 電話：06-6466-3450 代表：和田守氏
 創業：1981年 設立：1984年2月
 資本金：1200万円
 事業内容：各種ネット設計、据付工事



防球ネットの販売、設置で業容を拡大

富士ネット工業は、1981年に防球ネットを中心とした繊維性スポーツネットの販売、設置工事を目的として創業。ゴルフ場を中心に営業活動を重ね、ゴルフ場開発が盛んな時期には順調に新規開拓も進み営業基盤を確立していった。しかし、バブル崩壊によるゴルフ場開発の減少などもあり、既存取引先のネットの取替えや修理が主体となってきた。また、国内景気低迷により取引先となるスポーツ施設の経営環境が悪化。メンテナンス予算の削減が進んだことから、売上高は大きな伸びを欠くようになっていった。

防災分野への進出により再び業容拡大

このような状況を打破するため、富士ネット工業は防災分野へ進出した。進出当時、高速道路の橋梁でコンクリート片が剥落する事故が散発し社会問題化していた。従来は、モルタルなどを使用した対策がとられていたが、より迅速に広範囲で実行できる落下防止対策が必要となり、その対策として、繊維性ネットを利用した工法が採用された。当社が手掛ける「JK-N10」や「スマートメッシュ」を利用した工法は、従来の繊維シートを利用した工法と比べて、後期が短いことに加えて、景観を損なわないことや、設置後の点検なども容易であるなどの優位性を持っていた。このため、剥落対策に関する受注を多く確保することが出来た。従来のスポーツネットの設置工事も伸びは欠くものの、受注は安定しているため、業容は拡大するようになった。

防災分野で新たな取り組みを開始

剥落防止工事で防災分野での実績を残した富士ネット工業だが、天井落下防止工事の分野にも積極的に進出している。東日本大震災では、東京で九段会館の天井が落下する事故があったこともあり、天井落下防止工事への関連が一層高まった。特に災害時には避難所として利用される体育館や公民館の天井落下防止には大きな関心が集まっている。南海地震や東南海地震が発生する危険性が認識されるなか



和田守社長

で、対策は全国規模で実施されている。富士ネット工業は「NET-ONE工法」の名称で独自の工法を実施、着実に実績を残しているが、大手建設会社と共同で試験データを集めるなどして、より多くの受注獲得を目指している。また、この工法は、当社が手掛ける剥落防止工事と同様、他の工法と比べて景観を損なわない利点を持っている。このため、体育館や公民館だけでなく、文化施設や老舗旅館などからの受注も得ている。

ネットの専門企業として幅広い問題に対応

創業以来手掛けているスポーツネットの分野、特にゴルフ場関係の受注量は景気に左右されやすい。一方、防災分野の受注量は、景気には左右されにくいものの、国や地方自治体の予算規模などに大きな影響を受ける。富士ネット工業は、影響される条件の異なる両分野から受注を確保し、大きく受注が落ち込むことを防いでいる。また、防鳥ネットなど、それ以外の分野でもネットの専門企業として幅広い分野の問題を解決できる提案を行い、さらなる発展を目指している。